

2023 Spring

国土交通省 四国地方整備局
小松島港湾・空港整備事務所

Vol.58

あな

みなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

TOPICS

〈特集〉
令和5年度
事業概要を
ご紹介します

徳島小松島港
本港地区岸壁(-9m)の
リニューアルが完了!

新所長着任のごあいさつ

令和5年4月1日付けで事務所長を拝命いたしました 森 和彦 と申します。

まずは、自己紹介です。前職は高松サンポート庁舎に於いて四国管内の港湾・空港・みなと海岸の工事等に関わる実施部門の業務を担当しておりました。当事務所での勤務は今回で3回目となり、出身は、お隣の香川県です。皆さん、ガッツと笑顔を売りに業務遂行致しますので、今後ともよろしくお願い致します。

本号では、当事務所が令和5年度に取り組んでいく事業について紹介させていただいておりますが、地域のユーザーの声を丁寧に伺いながら、地域の方々と一緒になって仕事を進めていくため、職員一丸となって明るく前向きに、港湾・空港整備並びに海洋環境整備を推進して参ります。

現在、当事務所の主な事業と致しまして、国土強靱化政策に基づく港湾施設の南海トラフ地震・津波対策、老朽化対策を鋭意進めておりますが、これらを引き続き推進して参りますとともに、新たなニーズへの対応も必要と考えております。今年度からは、県内でバイオマス発電の原料輸入が本格的に始まることや、背後企業の増産によるコンテナ貨物の増加が見込まれていることに加え、港湾背後への企業立地などが進んでおります。これらの地域の企業活動を支えていくことに加え、脱炭素社会の実現に資するカーボンニュートラルポートの形成など多様な要請があると聞いており、港湾施設の役割は益々、重要になっていくものと思います。なお、港湾ユーザーの皆様からは、従前から港湾の利便性・安全性向上などで強いご要望をいただいているとお伺いしておりますので、先人に恥じぬよう、引き続き真摯にお応えしていく所存でございます。

また、徳島飛行場では、滑走路端安全区域(RESA)の現地着工に向けた関係各位調整を進めるとともに、海の環境を守り続ける海面清掃兼油回収船「みずき」の活動を継続的に行います。その他、アフター・ウィズコロナ時代におけるクルーズ振興や、県内各地域の「みなとの賑わい創出」への支援、さらには昨年度より始めた「命のみなとネットワーク形成」に向けた取組みなど防災対策も着実に進めて、地域の活力や豊かな環境と暮らしを創造し、皆さまの安全・安心を確保することに努めて参ります。

新年度を迎え、我々の事務所にも新規採用職員を含め人事異動で新メンバーが揃い、新たな体制での船出となります。当事務所の取組み状況は、本誌「あわみなと通信」を活用するなど、皆様へ随時情報発信して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

小松島港湾・空港整備事務所
森 和彦

小松島港湾・空港整備事務所 令和5年度事業概要

港湾整備事業

徳島小松島港における「国土強靱化対策」の推進

徳島小松島港では、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の一環として、港湾施設の地震・津波対策および老朽化対策を推進しています。

●徳島港区では防波堤の「粘り強い構造」への改良等を実施（沖洲(外)地区・津田地区）

防波堤は、入港した船舶が安定的に貨物を荷役するために、港外側からの波を防ぎ港内を静穏に保つ重要な役割を担っていますが、沖洲(外)地区防波堤は建設後30年近く、津田地区防波堤は40年以上が経過し、防波堤の沈下や老朽化による機能低下が進み、前述の重要な役割を一部果たせない状況であるため対策が必要となっております。

また、南海トラフ地震津波発災後に船舶を利用した緊急物資輸送の受入れや海上物流機能の回復を早期に行えるよう、徳島港区では、耐震性能を強化した岸壁や防波堤延伸、背後臨港道路における液状化対策の整備が完了していますが、地震津波発災後も港内を静穏に保ち、岸壁で安定的に船舶の荷役を行えるよう、沖側防波堤について、老朽化対策とあわせて「粘り強い構造」への改良に取り組んでいます。



GeoEye-1©2016 DigitalGlobe, Inc./画像提供:日本スペースイメーシング

— 対象施設と令和5年度の実施内容 —

沖洲(外)地区防波堤、津田地区防波堤において、本格的な改良工事に向けた調査・施工検討を実施するとともに関係者・利用者調整を進めていく予定です。

老朽化状況(H31.3撮影)津田地区防波堤

※最大2m程度の消波ブロックの沈下、
※消波ブロック沈下、
※折れ破損



消波ブロック据付の状況



●小松島港区では老朽化した岸壁のリニューアル工事を継続（本港地区・金磯地区）

老朽化（昭和30～40年代に整備）により利用が制限されている岸壁の施設改良に取り組んでいます。この岸壁リニューアル工事により、年間を通して貨物船やクルーズ客船の利用が可能となるとともに、施設の長寿命化を図ります。

対象施設と 令和5年度の実施内容

これまで進めてきた本港地区岸壁（水深9m）の改良工事は令和4年度で完了しました。令和5年度は、金磯地区岸壁（水深11m）の上部工改良工事を引き続き実施する他、泊地（水深11m）において、機能回復のための維持浚渫工事を実施予定です。

金磯岸壁にクルーズ船「にっぽん丸」が寄港



GeoEye-1©2016 DigitalGlobe, Inc./画像提供:日本スペースイメーシング

空港整備事業

滑走路端安全区域(RESA)整備による航空輸送の安全安心の確保

徳島飛行場では滑走路端安全区域(RESA:Runway End Safety Area)の整備に取り組んでいます。これは、航空機が離着陸する際に滑走路を超えて走行し停止する「オーバーラン」、または航空機が着陸する際に滑走路手前に着地してしまう「アンダーシュート」を起こした場合の航空機の被害・損傷を軽減させるための区域のことで、平成25年度に改訂された「空港土木施設の設置基準」に基づくRESAの範囲を満たすために、海側に必要な区域を確保することとしています。



GeoEye-1©2016 DigitalGlobe, Inc./
 画像提供:日本スペースイメージング

令和5年度の実施内容

滑走路端安全区域(RESA)の工事着工に向けた調査・施工検討等を実施するとともに関係者・利用者調整を進めていく予定です。

滑走路端安全区域(RESA)整備予定箇所
 滑走路端安全区域(RESA)の整備により、航空機の離着陸時の安全を確保します！



海洋環境整備事業

海上を利用する船舶の安全安心の確保と海洋環境の保全

四国地方整備局では、瀬戸内海に3隻の海洋環境整備船(みずき・美讃・いしづち)を配備しています。

海洋環境整備船「みずき」は、播磨灘南部及び紀伊水道西部を担務海域として、日々海の漂流物を回収しており、また、船舶事故等によって海に油が流出した際には油の回収を行い、近年では非常時の活動として下記にあるような支援活動を行いました。

- 平成30年 7月 西日本豪雨災害時の漂流物回収作業
- 令和3年 10月 和歌山市へ緊急物資(飲料水)輸送
- 令和3年 12月 東京湾での軽石の回収作業

また、海上交通の要衝である紀伊水道において災害が発生した場合に備え、小松島の「みずき」と和歌山の「海和歌丸」による合同訓練をH29年度より毎年実施しています。

今年度は、海上輸送航路に大量の漂流物が流入し船舶航行に支障をきたしたことを想定し、2隻が協働して流木回収や流出油の防除などの訓練を3月7日に実施し、有事の際に迅速に復旧活動を行えるよう、互いの連携力強化に取り組みました。

今後も、日々の漂流物回収を行いつつ、災害支援に積極的に対応することで、海上を航行する船舶に安全安心を提供するよう取り組んでいきます。



職員コラム

企画調整課の高橋です。現在当事務所では国立阿南工業高等専門学校独自の制度「コーオブ教育」から応募いただいた、建設コース3年生の高澤優颯(たかざわゆうは)さんを実習生として受け入れ、私たち四国地方整備局の業務内容ややりがい、港湾の重要性を学習していただいています。

港湾や空港の現場視察、会議や打合せと一緒に参加していただくことで、整備局職員としての業務内容や職場の雰囲気を肌で感じていただくとともに、「フェリー岸壁などの港湾整備によりどのような事業効果が発現しているかを調査すること」を実習テーマとし、高澤さんが実習で学んだことや自身のアイデアを活かして、フェリー会社へのヒアリングや事業効果の取りまとめ業務に携わってもらっています。

今回、全3回の実習のうち2回目の実習に来られた高澤さんに、実習に参加した感想などをお聞きしました！

実習生インタビュー

Q. コーオブ教育で整備局を志望したきっかけは？

私は実家が千葉県にあり、帰省の際に空港を利用します。頻繁に飛行機(空港)を利用していくうちに自然と空港に興味が湧くようになりました。そこで名前に「空港」という字があるこの事務所(小松島港湾・空港整備事務所)を選びました。一方で、港湾という名前では普段なじみがないことから、一体どんなことをしているのかわかりなくなりました。また実際に働いている職場の雰囲気を感じてみることに興味があったからです。

Q. コーオブ実習を通じて感じたこと・学んだことは？

今回の実習では、船の操縦席やエンジンを見たり、防波堤に上がって港を見たり、空港の中に入って飛行機を間近で見ると、普段足を踏み入れることのできない現場を見たことで、その規模の大きさや迫力から興味・関心がより一層強くなりました。そのほかにも、企業ヒアリング用資料を作成し、職員の方にチェックしていただけて何度もブラッシュアップを行ううちに、自分が成長していくことを感じることができました。また、最後の成果発表では、自分より年齢が上の人たちの前で発表したことで、学校とはまた違った緊張感が味わえました。

Q. 実習の経験を今後どのようなことに活かしていきたいか？

今回の実習では職場でのコミュニケーション能力や、資料をまとめあげるプレゼン力など、様々な力をつけることができました。これらは将来、大学に進学した時や、その先で就職して働くようになってからも、強い武器になると考えています。次回の実習ではどんな現場にいけるのだろう、どんな会議に参加できるのだろうと、すでに楽しみでいっぱい、今回と同様に仕事を楽しくつづ全うしたいと思います！(笑)

四国地方整備局ならびに当事務所では今回の実習のような港湾分野に興味を持っている学生に向けたリクルート活動に取り組むことで若い世代の皆さんに港湾の魅力を知っていただくよう努めております。



たくさんの職員の前での成果発表



普段踏み入ることのできない現場の見学



空港場内から飛行機を間近で見学

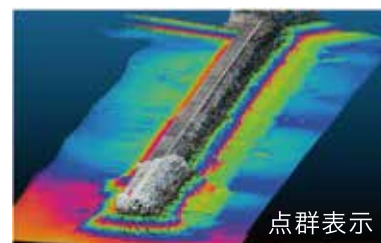
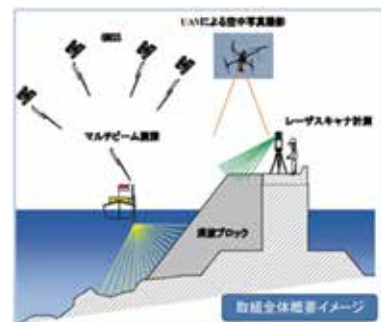
第6回インフラメンテナンス大賞(優秀賞)を受賞

「ナローマルチビーム・レーザスキャナ・UAVを用いた港湾施設の効率的な三次元計測」

当事務所発注の「令和3年度徳島小松島港現況測量調査」で取り組みを行った「ナローマルチビーム・レーザスキャナ・UAVを用いた港湾施設の効率的な三次元計測」(受注者:国際航業株式会社)が、第6回インフラメンテナンス大賞(優秀賞)(メンテナンス実施現場における工夫部門)を受賞しました。

本取り組みは、港湾施設の現況確認(天端高、変状等)を行う上で消波ブロック上での作業ならびに潜水作業を回避できるため安全な手法(陸上部:UAVとレーザスキャナの併用、水中部:ナローマルチビーム)で三次元データを取得することを目的としたものであり、維持管理メンテナンスの効率化、定量化、可視化を実現するとともに、港湾施設の適切な維持管理修繕・長寿命化、作業の安全に寄与する取り組みであることが評価されたものです。

今回の取り組みを通じて、今後も維持管理メンテナンスの生産性向上・効率化・高度化に向けた技術開発に官民連携して積極的に取り組んで参ります。



徳島大学で港湾に関する講義を開催しました！

2月2日、徳島大学工学部社会基盤デザインコースの「沿岸域工学」(担当教員:山中亮一准教授)を履修する3年生の皆さん(40名)に、港の役割や港湾物流、港を構成する施設についての講義を行いました。

まずはじめに、日本において港湾が、人々の暮らしや企業の国際競争力の強化に非常に重要であることなどを学習していただいた後、グループワークとして、企業や市街地の場所や自然地形条件、対象となる船の大きさなどをもとに、最適な場所に岸壁や防波堤などを配置してもらう「港湾計画実習」を行いました。限られた時間の中でしたが、グループの仲間と議論している皆さんの真剣な表情が印象的でした。

最後に入省1年目の若手職員から職場紹介として、この職場を選んだきっかけや、今どのような仕事をしているかなどをお話しました。アンケートでは、「仕事内容や実際に働いている人のリアルな声が聞けて親しみやすい話だった」「港湾が自分達の生活と密接に関連していると感じるようになった」といったコメントをいただきました。実際に講義後には港湾に興味を持った学生たちが職員に個別で入省までの経緯など具体的な質問をしている様子も見られました。

暮らしを支える港湾の発展のため、今、特に若い世代の皆さんの力が必要とされています。私たちの事務所では今後もこのような活動を続けていきます。



講義の様子



グループワークの様子



完成した港湾計画図を発表

外航クルーズ船「ウエステルダム」を海から見学していただきました!!

3月17日(金)の外航クルーズ船「ウエステルダム」寄港に併せて、港湾業務艇「ひのみね」によるみなと見学会を開催しました。

今回は外航クルーズ船の徳島小松島港寄港自体がおよそ4年ぶりであって、より近くで外航クルーズ船を見学してもらおうと、特別ルートにて3便限定で運航しました。

残念ながら小雨が降る中での実施となりましたが、豪華客船の迫力をより近くで感じ、普段見ることのできない海からの光景を楽しんで頂けたのではないかと思います。

当事務所では、港湾整備ならびに港の大切さを皆さまに知っていただけるよう、今後こういったPR活動を実施していきます。



出前講座の申し込み受付中!

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



当事務所
TEL

出前講座、現場見学のお問い合わせは…

(0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。



事務所ホームページQRコード

発行 / 国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 企画調整担当
〒773-0001 小松島市小松島町字外開1-11 小松島みなと合同庁舎2階 TEL:(0885)-32-3855 FAX:(0885)-35-0010

URL <http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
E-mail pa.skr-kmj-m-i88s3@mlit.go.jp



地球に優しい大豆インキを使用しています。